



# 二葉だより

令和5年11月30日 NO.8

墨田区立二葉小学校

校長 山崎 隆



## しゅうあん

校長 山崎 隆

令和5年もういよいよ12月を迎え、1年の締めくくりとなる何かと忙しい日々がやってきます。大掃除の算段や年賀状の準備、年末年始の予定など、やるべきことが目白押しで時計の針が一層速く感じられます。12月の異称である「師走(しわす)」は、普段は落ち着き払っている師(僧侶)でさえも暮れの仏事で走り回ることから生まれた言葉だそうです。普段は落ち着いている(実際はなかなかそうではありませんが...)教師も慌ただしく走り回るという意味も込められているとか。とはいえ、12月の慌ただしさは無事に新しい年を迎えるためのものです。そわそわする気持ちをひとまず落ち着けて、心静かに年末年始の計画を立ててみましょう。

さて、「しゅうあん」という言葉を聞いて、皆さんは何を想像しますか?あんこの入ったシュークリーム?横浜名物の食べ物?ちなみに東京駅などで買える「しゅうびあん」というあんこをシュークリームの皮で包んだお菓子があります。

漢字で書くと「週案」です。我々教員は、日々の授業を行う際に「週ごとの指導計画」を作成し、計画に基づいて授業を進めています。その週の学習指導の計画や授業展開の概略、児童の学習や学校生活の記録などを含む週単位の指導計画をつづったものがいわゆる「週案」で、つづられたノートやファイルが「週案簿」です。「週ごとの指導計画」は、全教員が毎週提出し、校長が決済します。その根拠は、教育委員会が定める「墨田区立小中学校の管理運営に関する規則」における校長の職務「学校教育の管理」です。学校教育の管理とは、学習指導要領に示された「教育課程」(学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を児童の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した各学校の教育計画)の適正な実施とその改善を確実に行うことです。学校教育の管理における基本中の基本が各教員が作成する「週ごとの指導計画(週案)」です。各教員は週を単位として授業の計画を立て、実施し、振り返り、改善するという一連のサイクルを繰り返しながら、日々の授業の実施や改善、学級経営に1年間取り組んでいます。そして、年度末には学校評価を行い、次の年度の教育課程編成につなげていきます。学校評価は文部科学省の「学校評価ガイドライン」に基づいて行われていますが、ガイドラインにおいては「教育課程の状況」を評価する際に、「教育課程の実施に必要な年間の指導計画や週案などが適切に作成されているかどうか」と規定されています。ここでも「週案」の重要性が示されています。

私は、学級担任と専科教員25人分の週案を毎週読んで返事を書いています。各授業の単元(内容のまとめ)名や学習内容、その時間のめあて、安全上の留意点や時間数などを確認して決済しています。また、週案には各学級の子供たちの様子や指導上の課題等の記録も記載されています。特に、子供たちが頑張っている様子や成長の様子を教員がうれしそうにつづっているのを読むのが好きです。「あの子はこんなに頑張っているんだ」「こんなよさがあるんだ」「こんなに成長したんだなあ」と、まるであんこのように甘くて心地よい刺激で脳や心が満たされます。

これからも、二葉小の全教員が子供たち一人一人としっかりと関わり、日々の授業や学級経営等を通して子供たちの頑張りやよさ、成長を喜び、保護者や地域の皆さんと共有できる学校づくりを進めていきます。